

学校法人龍谷大学と一般社団法人京都府北部地域・大学連携機構との
京都府北部地域・大学連携推進事業に関する業務委託
報告書

平成27年3月16日

一般社団法人京都府北部地域・大学連携機構

京都北部地域・大学連携機構 委託業務報告書

一般社団法人京都府北部地域・大学連携機構（以下、CANKA）は、大学間連携共同教育推進事業「地域資格制度による組織的な大学地域連携の構築と教育の現代化」を実施するにあたり、学校法人龍谷大学より業務委託を受けた。以下、平成26年度委託業務の報告を掲載する。

1 業務委託の概要

1-1 業務委託期間

平成26年4月1日～平成27年3月31日

1-2 業務委託内容

平成26年度、大学間連携共同教育推進事業では、これまで連携大学が進めてきた地域連携の実績から地域課題解決のモデルが抽出される予定であることから、CUANKAでは、総合大学が立地しない京都府北部地域へそのモデルを移転し、京都府北部地域における大学地域連携のモデル構築を進めるため、「京都府北部地域への課題解決モデル移転に係る業務」「キャップストーンやアクティブ・ラーニングのコーディネート」「広域的な大学連携をもつ仮想キャンパス構想に係る会議運営」を委託事業として行った。

1-3 業務委託の概要

「京都府北部地域への課題解決モデル移転に係る業務」については、大学間連携事業において抽出される地域課題解決のモデルを総合大学が立地しない京都府北部地域において汎用性のあるモデルとして定着させるために、大学、行政、NPO、地域団体等の多様な主体に働きかけ、コーディネーションを行った。

「キャップストーンやアクティブ・ラーニングのコーディネート」については、京都府北部地域がその活動フィールドとして円滑に進められるように大学間連携事業の意向と調整をしながら、地域とのコーディネートを行い、アクティブ・ラーニングを大学教育課程に体系的に組み込むための支援を行った。

「広域的な大学連携をもつ仮想キャンパス構想に係る会議運営」については、総合大学の立地しない京都府北部地域において大学と地域の広域的連携拠点構想の検討を進めていくためにCUANKA内に大学、地域団体、行政等によって構成される「仮想的大学地域連携キャンパス検討部会」を設置し運営を行う。研究会では、長野県飯田市や先行的に進められる京丹後市の取り組みを参照しながら、仮想キャンパス構想に関する大学、地域の相互理解を進める。また、仮想キャンパスのコンテンツとして、これまで大学間連携事業が開発・実施を進めてきた地域公共人材育成プログラムを基軸とした京都府北部地域の行政職員研修や遠隔講義、市民大学のプログラム検討・開発等を行った。

2 業務の具体的内容

CUANKAは設立後2年が経過し、各市町村、京都府、大学の協力を得て体制的には整いつつある。しかしながら目標とすべき地域像に向けて、各団体と協働した軸となる事業の運用がまだ十分ではなく、将来に渡って持続可能な事業展開をしていくためには、これまでのような単に地域側・大学側のニーズのマッチングではない戦略的な取り組みが必要になってきている。地域と大学が戦略的に事業を組み立て実施することにより、地域を変革していくことが必要であり、そのためにCUANKAも戦略的に事業を組

み立て直す必要がある。

今年度より CUANKA では、事務局機能の充実を図るため戦略会議を設置すると共に、CUANKA のミッション・ビジョンを策定し、これらの方針に従い戦略的な事業展開を行った。

【ミッション】

- 大学と地域の持つ豊かな資源を活かし、京都府北部地域の課題解決を行う。
- 持続可能な安定した事業型プラットフォームを確立する。

【ビジョン】

- 職員研修システムを 2014 年度末までに構築し、2015 年度に試行する。
- 仮想的大学地域連携キャンパス構想を 2014 年度末までに確定する。
- 上記二つのミッションを軸にしたプロジェクト事業を展開する。

2-1 部会設置

CUANKA の戦略的取組として、平成 26 年 1 月 30 日に開催された CUANKA 臨時総会において、CUANKA が目指すべき地域づくりに向けて具体的なテーマを設定し集中的に方向付けを行うために、部会設置案が承認された。このことを受けて、CUANKA が取り組むべき重点テーマについて定期的に意見集約を行い、また北部 5 市 2 町の首長との意見交換を踏まえ、大学、関係機関と連携を取り、「職員研修システム検討部会」と「仮想的大学地域連携キャンパス検討部会」の設置を、平成 26 年 6 月 27 日の総会で承認を得て、CUANKA の戦略的取組として部会運営を行った。

2-2 職員研修システム検討部会

○職員研修システム検討部会設置目的

京都府北部地域は京都市内の研修センターから遠いため、研修に参加する職員が限られているのが現状である。また、京都府北部地域の個別課題に対応した研修が十分に実施されていない。地域経営環境が厳さを増している中で、この局面を積極的に打開していくためには、職員数の量的拡大ではなく、職員自身の高い課題意識と課題解決力の開発が喫緊の課題となっている。本部会では、行政、地域および大学の連携を活用して、京都府北部地域の地域特性に即応し、多くの職員が広範で活動的な研修を受けることができる高度な職員研修システムを構築する可能性と具体策について協議し提言を取りまとめることを部会の設置目的とした。

○職員研修システム検討部会の概要

各自治体の職員研修における現状の課題を整理し、幅広く職員が職員研修を受けられる機会を作り、それに基づき政策を生み出していく独自の研修システムを構築する。特に小規模自治体でも対応でき、最終的にアクションに結びつく高度な研修システムを検討する。また今年度以降、各自治体において試行的に一部研修システムを運用していく予定とした。

○職員研修システム検討部会構成

北部 5 市 2 町の人事関係の課長級担当者、京都府（政策企画部戦略企画課、中丹広域振興局、丹後広域振興局）、京都府立大学、龍谷大学、特定非営利活動法人きょうと NPO センター、特定非営利活動法人自治創出プラットフォーム京都もやいなおしの会、一般財団法人地域公共人材開発機構の 15 団体で構成した。

○職員研修システム検討部会の開催

平成26年度の職員研修システム検討部会は、下記の通り5回の部会を実施した。

第1回部会 月日：平成26年8月7日（木） ・ 時間：15：00～17：00

場所：福知山総合庁舎中丹西保健所講堂

内容：部会設置主旨、部会規約、部会長選出、検討事項

第2回部会 月日：平成26年9月5日（金） ・ 時間：15：00～17：00

場所：舞鶴市商工観光センター

内容：自治体ヒアリング報告

第3回部会 月日：平成26年10月14日（火） ・ 時間：15：00～17：00

場所：宮津市保健センター

内容：共通プログラム（素案）

第4回部会 月日：平成26年11月10日（月） ・ 時間：15：00～17：00

場所：綾部市I・Tビル

内容：具体的プログラムの検討（北部5市：共通職員研修、伊根町：地域づくり実践研修、与謝野町：職員研修計画策定）

第5回部会 月日：平成27年3月20日（月） ・ 時間：15：00～17：00

場所：京丹後市役所大宮庁舎

内容：平成26年度共通職員研修報告、平成27年度職員研修、行政職員研修協議会（仮称）設置について

○職員研修システム検討部会の協議概要

北部5市2町の職員研修担当である人事課または総務課に対し、職員研修に関する実績、目指す職員像、育成したい能力、必要とされる研修等のヒアリング調査を実施すると共に、京都府市町村振興協会での研修プログラムの特色を整理した。それらを踏まえ北部5市2町での実施を想定した職員研修システムの検討を部会で行った。その結果、来年度の予算確保次第ではあるが、北部5市（福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市）では共通職員研修を、北部2町（伊根町、与謝野町）では庁内プロジェクト型職員研修を進めることとなった。職員研修システム検討部会としては、次年度での職員研修実施が確定したが、職員研修システム検討部会として次年度も継続協議をすることとなった。また、来年度実施する共通職員研修の一部を、今年度試行することとなり、次の通り実施した。

○平成26年度 共通職員研修（会場：舞鶴市総合文化会館小ホール）

共通講座のコンセプト

- ・本講座は、京都府北部5市の行政職員を対象に、協働型社会に深い理解を示し、市民自治の実現をリードする人材を養成するものである。
- ・本講座の受講生は、講義やグループワークなどを通じて、協働型社会における行政職員のあるべき姿や役割について、自らのものとして考えることとする。
- ・また、人口減少社会における協働型の社会づくりを学ぶとともに、京都府北部地域が抱える課題に関する政策研究を行い、協働による政策の実現を図ることとする。

参加対象：係長級までの中堅職員

参加者数：50名程度

実施内容：第1回目 月日：平成27年1月14日（水） ・ 時間：10：00～15：30

内容：「協働を楽しむ公務員とは」講師：新川 達郎（同志社大学政策学部教授）

第2回目 月日：平成27年2月 5日（木） ・ 時間：10：00～16：00

内容：「地域に飛び出す公務員」 講師：森本 健次（南山城村役場）

第3回目 月日：平成27年2月17日（火） ・ 時間：10：00～16：00

内容：「協働を実現するアクションの組み立て方」

講師：富野 暉一郎（龍谷大学政策学部教授・元逗子市長）

○平成26年度 共通職員研修のまとめ

共通職員研修に5市2町から48名（延べ数）の職員が参加した。全出席者の7割近くが、3回受講することができたが、その一方で、仕事や病気により各回で欠席者が出ていた。講義の満足度は、講義によってばらつきがあった。特に第2回目の講師は評価が高かった。グループワークの満足度（全体）は、回数を重ねるごとに、下がっていった。他方で、皆勤者のグループワークの満足度は横ばいであった。グループワークの満足度（第1回・第2回）は、グループ間でばらつきがみられた。研修の自己評価は、「発見」と「やりがい」が高い水準で横ばいであった。「思索」は他の項目と比べて低い。回数を重ねるなかで向上した。研修の全体評価は、「満足度」と「適切度」は、おおむね高い評価を受けた。

○共通職員研修の今後の課題

引き続き、多くの方が参加できるようにする。欠席者へのフォロー体制を構築する。講師とのテーマに関する情報共有を深めることで、講義をよりよいものにする。グループワークは連続受講してもらうことが重要になっており、グループの構成やグループワークの設計について、さらに検討する。グループワークの充実や一定程度の質を確保するために、ファシリテーターの投入及び養成を行う。共通研修の改善を図るとともに、効果測定（半年後を想定）を実施し、研修の実効性を高めることが、次年度へ向けての課題として整理した。

○平成27年度に実施する共通職員研修実施計画（案）

実施目標は、京都府北部地域の行政職員を対象に、協働型社会に深い理解を示し、市民自治の実現をリードする人材を養成する共通職員研修を実施することを目的とし、下記の概要に沿って実施する。

場 所：各自治体の持ち回り

時 間：平日の午前ないし午後（おおよそ半日程度）

回 数：年間9回程度（全3回講座×3）

対 象：係長級までの中堅職員（主に5～10年目職員）

参加者数：30名～50名程度（6名～10名程度×5市）

実施内容：当初企画案の第1期講座「目からウロコの公務員原論」は、平成26年度試行事業の成果をベースにして改善し、年2回開催する。

当初企画案の第2期「地域社会起点の政策づくり」は、タイトル及び内容を修正し、試行事業を1回開催する。

当初企画案の第3期「人口減少と地域創生」は、第1期及び第2期の取り組み内容を基に、

講座のタイトル及び内容を検討する。

実施時期：①平成27年7月～8月、②平成27年10月～11月、③平成28年1月～2月

効果測定：①平成27年8月（平成26年度試行）、②平成28年2月（平成27年度第1回）、

③平成28年5月（平成27年度第2回）、④平成28年8月（平成28年第3回）

講座内容：第1期講座「目からウロコの公務員原論」（全3回）

協働の概念や協働型社会の重要性を学び、協働型社会の実現に向けたアクションプランを作成・実行する。形式：講義、グループワーク

第2期講座「地域に飛び込む公務員実践論」（全3回）

地域での協働型事業・プロジェクトの実践するために、地域課題・情報の共有を図る環境づくりを学習する。形式：講義、視察、演習

2-3 仮想的大学地域連携キャンパス検討部会

○仮想的大学地域連携キャンパス検討部会設置目的

人口減少時代に入って長期的に衰退の危機が現実化しつつある日本の地域社会において、地域固有の資源と外部資源を高度に結合し持続可能な社会を実現することは喫緊の課題である。これまで十分に評価されてこなかった大学の高度な知識・技術・情報及び教員と学生という大量の人的資源と地域社会との連携は、地域社会のイノベーションを実現するための必須の要件となっている。仮想的大学地域連携キャンパスは、大学の無い京都北部地域において、多くの大学等の協力連携のもとに大学のあらゆる資源を導入し希望のある京都府北部の未来を創出するために開設される新たな市民大学である。さまざまな魅力ある大学システムが北部地域で展開できる可能性について構想を策定し、具体化に向けての基盤づくりを行うことを目的とすることを部会の設置目的とした。

○仮想的大学地域連携キャンパス検討部会の概要

市民の側から求められている市民大学等の高度化（大学院設置など）への対応をはじめとして、高校生などの若者を含む多世代型の市民大学、大学生などの外部人材との交流や共同プログラム、更には大学の講義等を個人が直接受講できる新たなICT型市民大学などを検討し、構想案のとりまとめを行った。

○仮想的大学地域連携キャンパス検討部会構成

北部5市2町の企画または生涯学習部局の課長級担当者、京都府（政策企画部戦略企画課、中丹広域振興局、丹後広域振興局）、京都府立大学、龍谷大学、京都産業大学、特定非営利活動法人京都丹波・丹後ネットワーク、特定非営利活動法人里山ねっと・あやべ、一般財団法人地域公共人材開発機構、富士通総研の17団体で構成した。

○仮想的大学地域連携キャンパス検討部会の開催

平成26年度の仮想的大学地域連携キャンパス検討部会は、下記の通り5回の部会を実施した。

第1回部会 月日：平成26年6月27日（金） ・ 時間：13：00～14：30

場所：福知山総合庁舎中丹西保健所講堂

内容：部会設置主旨、部会規約、部会長選出、検討事項

第2回部会 月日：平成26年8月28日（金） ・ 時間：15：15～17：15

場所：市民交流プラザふくちやま

内容：京都府の大学政策、成美大学の現状、サイバー大学、ICT 導入事例、各自治体での生涯学習等の取り組み、地域再生制度

第3回部会 月日：平成26年11月5日（水） ・ 時間：10：15～12：15

場所：福知山総合庁舎中丹西保健所講堂

内容：大学の公開コンテンツ調査、各自治体での活用施設、京丹後市夢まち創り大学

仮想的大学地域連携キャンパス研究会

月日：平成26年11月10日（月） ・ 時間：10：00～13：00

場所：京丹後市役所 峰山庁舎 201 会議室

内容：大学間連携共同教育推進事業における仮想的大学地域連携キャンパス構想

京都府北部地域・大学連携機構における部会報告

京丹後市における大学との連携によるまちづくり

先進地事例紹介「大学コンソーシアム石川」、「さやま市民大学」

パネルディスカッション

第4回部会 月日：平成26年12月3日（水） ・ 時間：10：15～12：15

場所：福知山総合庁舎中丹西保健所講堂

内容：MOOC 事例、市民と NPO が運営する大学、大学の公開コンテンツ調査、地域再生制度、フューチャーセッションの実施について

第5回部会 月日：平成27年3月6日（金） ・ 時間：10：15～12：15

場所：福知山総合庁舎中丹西保健所講堂

内容：フューチャーセッション報告、ICT 活用事例紹介、京都地域おこし大学校（仮称）構想、次年度の進め方

○仮想的大学地域連携キャンパス検討部会の協議概要

北部5市2町の企画または生涯学習部局の課長級担当者に対し、生涯学習に対する取組実績および活用施設等についてヒアリング調査、大学へのエクステンション講座に関する調査（大学コンソーシアム京都、京都橘大学エクステンションセンター、京都文教大学フィールドリサーチセンター、龍谷大学エクステンションセンター、佛教大学四条センター、京都産業大学連携推進室、京都大学学際融合教育研修推進センター地域連携教育研究推進ユニット）を行うと共に、成美大学の現状、市民と NPO が運営するローカル大学や ICT を活用した事例の報告、京丹後市夢まちを実施創り大学の状況などと共に、仮想的大学地域連携キャンパスの構想を部会で協議を進めた。また「学びの場」や「学びの方法」をテーマに、部会の議論に幅広く市民の声を反映させることを目的に、次の通りフューチャーセッションを実施した。

京丹後市夢まち創り大学「フューチャーセッション」

月日：平成27年2月18日（水）・時間：14：00～16：30・場所：アグリセンター大宮

参加：域学連携事業参加学生および地域住民（43名）

高校生ミライ会議 in 福知山

月日：平成27年2月22日（日）・時間：13：00～16：30・場所：市民交流プラザふくちやま

参加：高校生、大学生、地元住民（35名）

フューチャーセッション in 舞鶴

月日：平成27年2月26日（木）・時間：18：30～20：30・場所：舞鶴市市政記念館赤れんが2号棟 参加：舞鶴市政策づくり塾生（6名）

高校生ミライ会議 in 伊根

月日：平成27年3月1日（日）・時間：13：00～16：30・場所：海蔵寺

参加：高校生、大学生、地元住民（21名）

○仮想的大学地域連携キャンパス検討部会今年度のとりまとめ

仮想的大学地域連携キャンパス検討部会では、今年度の結果として、「京都地域おこし大学校（仮称）構想～大学機能が希薄な地域に「学び」の仕掛けを～」として次の通り構想をまとめた。

事業の目的：京都府内の大学機能が弱い地域において、大学をはじめ、産学公NPO多様な主体と協働し、地域課題の解決と持続可能な新しい地域社会づくりを牽引する「地域公共人材」を育成するための学びの場と機会を創造する。もって京都府版の地方創生に人材面から貢献する。

事業の目標：地域で活躍する人材の学び直しを可能にする。U・Iターン希望者に地域を学び、地域を見つめ直す機会をつくる。若者や女性から選ばれる地域づくりに貢献する。大学機能が希薄な地域に「学び」の仕掛けをつくり、京都府北部・南部に定着する地域公共人材を育成。

事業の対象：①積極的に学び直しをし、地域のために知識やスキルアップしたいと思う者（特に中高年）。②自分が生まれ育った京都北部・南部地域へのUターンを希望する者。③大学機能が希薄であるが、魅了ある京都北部・南部地域にIターンを希望する者。

実施地域：京都府北部地域（福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町）と京都府南部地域（笠置町、和束町、南山城村）

事業の内容：『大学校の設置、サテライトとのネットワーク』

府内に「京都地域おこし大学校（北部校/南部校）」を設置。未来共創ラボとの連携を図り、市町村や地域と戦略的に課題を捉え、広域かつ大学の資源を活かしながら、地域公共人材の育成に向けた事業やプログラムを企画・運営する。北部校・南部校をコア、各市町村及び各地域で展開される学びの拠点や「小さな拠点」をサテライトにし、これらを実施地域全体で有機的に結びつける。

『コト起こし学部』『地域に飛び出す公務員学部』の開設

地域おこしに興味・関心のある人材（NPO、企業、自治体等）の育成を目的に、講義及びPBL形式の学習プログラムを、サテライトキャンパスで実施するとともに、ICTも活用する。

『地域公共政策士プログラム』『大人の地域おこし学習』

U・Iターン希望者を対象に、大学や関係団体との連携を図り、集中講座（専門教育・PBL）・現地見学会・短期インターンシップ・長期研修等の事業を展開する。

『ローカルメディアを利活用しての情報発信』

北部地域・南部地域にあるローカルメディア（コミュニティFM、地元新聞など）とも連携し、地域おこし大学校の情報発信を行うとともに、一部番組の中で講座等も実施。

○仮想的大学地域連携キャンパス検討部会の今後の課題

今年度の構想を基に、来年度は大学校の実施計画づくりとし、事業内容に対応したワーキングチームを結成し、次年度の実施に向けた計画策定を行う。サテライトのネットワーク化や講義のコンテンツ化公開など、一部の事業の試行を目指す。また国、京都府への提案、予算化を目指し、仮想的大学地域連携キャンパス検討部会での協議を進めていく。

2-4 大学と地域の連携によるコーディネート事業

○京都版ギャップイヤー事業

若者の京都府北部地域への就職・定住を促進するために、京都府内の大学生及び京都府北部地域の高校生を対象にして、京都府北部地域での実践的な学習プログラムや交流事業を実施した。夏季プログラム（平成26年8月～10月）では、北部地域ならではのテーマ（「観光」・「環境教育」・「アート」・「里山」・「農業」）を掲げ、地域で活躍されている方々との交流を通じて、地域の魅力発見や課題解決に取り組む「田舎留学」を企画・実施した。冬季プログラム（平成26年2月～3月）では、北部地域の高校生をまちづくりの担い手であると位置づけ、将来における京都府北部地域への定住意向を高めることを目的とした「高校生ミライ会議」を開催した。

夏期プログラムは13プログラムを実施し、後期プログラムは4プログラムを実施した。また夏期プログラムに参加した立命館大学の学生が、学内で有志を募り、宮津市街地の活性化に向けたプロジェクトを来年度企画する。さらに、福知山成美高校の生徒らは、後期プログラムで実施した「高校生ミライ会議」の自主開催に関する議論をスタートさせている。

参加した大学生および高校生は次の通りである。大学生は、立命館大学、同志社女子大学、龍谷大学、京都府立大学、同志社大学、京都大学、大谷大学、成美大学、京都精華大学、京都文教大学、甲南女子大学、京都造形大学、京都女子大学、京都産業大学、京都嵯峨芸術大学の15大学から、115名の参加があった。高校生は、京都府立福知山高等学校、福知山淑徳高等学校、福知山成美高等学校、京都共栄学園高等学校、京都府立綾部高等学校、京都府立宮津高等学校、京都府立海洋高等学校、京都府立網野高等学校、京都府立久美浜高等学校の9高校から、56名の参加であった。

○政策マーケティング（100人ミーティング）事業

市民協働の推進やまちづくり計画の策定にあたり、福知山のまちづくりに関する具体的なテーマについて幅広い立場の多様な市民による討議により、市民意見の抽出と市政への参画機会を増やすことによるまちづくり意識向上のための事業に対し、大学・地域間のコーディネートを行った。

平成26年10月18日に成美大学4号館を会場として、無作為抽出24名、高校生3名、成美大学生2名、市役所戦略PT10名、龍谷大学生を中心としたファシリテーター・補助員18名、合計57名の参加者による100人ミーティングを実施した。

3 大学・地域連携事業における課題と展望

本年度、CUANKAは、京都府北部地域の課題解決を図るとともに、持続可能な安定した事業型プラットフォームを確立するために、重点テーマに関する部会を設置し、大学、自治体、地域が参画する戦略的協議によるプロジェクト事業の創生・実施を行った。地域や大学から提起されるニーズへの対応やそれらのマッチングから脱却し、大学と地域社会との組織的な連携の深化を進めたのである。

具体的には、「地域資格制度による組織的な大学地域連携の構築と教育の現代化」が掲げる達成目標を実現するために、広域的な大学連携による仮想キャンパス構想を検討し、大学間連携事業が開発・実

施を進めてきた地域公共人材育成プログラムを基軸とした事業を展開したのである。今年度設置した「仮想的大学地域連携キャンパス検討部会」では、大学、行政、地域団体、民間企業が参加し、地域公共人材を育成するための学びの場とその枠組みを議論した。また、「京都版ギャップイヤー事業」においては、京都府内の大学生・大学院生を対象に、ソーシャルスキルの習得を目的にしたフィールドスタディを企画・運営した。さらに、京都府北部地域の行政職員を対象に、協働型社会に深い理解を示し、市民自治の実現をリードする人材を養成する「共通職員研修」を実施したのである。

その一方で、これらの取り組みは、大学教育の本体部分との接続にまでは至っておらず、大学と地域社会との持続的な連携スキームの構築が、重要な課題となっている。現段階において、CUANKAが提供する地域公共人材の育成を志向した事業は、「地域公共政策士」の理念をベースにして組み立てられているものの、「地域公共政策士」の資格教育フレームワークとの整合性は取られていない。今後は、京都府北部地域が抱える課題をテーマにした「地域公共政策士制度」向けのプログラム開発・提供を行い、大学の講義科目ないし課外科目への実装化による教育の現代化に貢献する必要があると考える。

来年度は、地域資格制度による大学と地域社会との組織的連携の実現とその恒久的なフレームワークを構築するために、連携大学及び一般財団法人地域公共人材開発機構とのさらなる連携を図り、京都府北部地域をフィールドにした「地域公共政策士制度」向けのプログラム開発・試行を推し進める。あわせて、これらのプログラムは、仮想的大学地域連携キャンパスの重要なコンテンツに位置づけられることが期待できると考える。そのため、「仮想的大学地域連携キャンパス部会」において、大学と地域の広域的連携拠点を構想するとともに、資格教育フレームワークと連動したプログラムの検討・開発を行うこととする。

本業務に関する問い合わせ

一般社団法人 京都府北部地域・大学連携機構

〒620-0886

京都府福知山市字堀 3370 成美大学 1 号館 2 階

電話：0773-45-3517 FAX：0773-45-3518

メール：info@cuanka.org